

生徒指導に関する講演会 演題「いじめと向き合う～意識改革～」

弁護士・法律事務所豊凜、大阪大学大学院高等司法研究科客員教授 横山巖 氏



【横山巖 先生のプロフィール】

【実務に関する活動等】

- ・大津市立中学校におけるいじめに関する第三者調査委員会委員長（平成24年8月31日から平成25年1月31日まで）
- ・大阪弁護士会子どもの権利委員会委員長（平成26年度）
- ・近畿弁護士会連合会子どもの権利委員会委員長（平成26年度）
- ・日本弁護士連合会子どもの権利委員会副委員長（平成26年度）
- ・いじめ防止対策協議会委員（文部科学省・平成26年～）
- ・日本弁護士連合会子どもの権利委員会幹事（平成27年度～）

【主な著書・論文】

- ・「無剰余取消」2000.10 新・裁判実務体系7不動産競売訴訟法 青林書院
- ・「松江地方裁判所浜田支部・益田支部における民事通常訴訟運営の実情について」2003.3 民事訴訟雑誌49号
- ・「民事事件における心理専門職の関わり」2016. 犯罪心理鑑定の技術 金剛出版
- ・「少年への寄り添い」2016.11 希望の裁判所 LABO

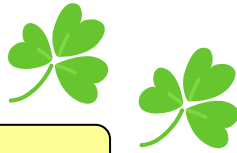
11月21日（火）ライフパーク倉敷 大ホールで「生徒指導に関する講演会」を開催しました。会場には倉敷市内の教職員、保護者等、207人の方々が集まりました。横山先生の熱い思いに魅了されたあっという間の90分間でした。いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こること。いじめが存在していることを否定し、その存在が隠されてしまうことやそれを発見できず、放置していることこそ最も恐れるべきことであること。いじめは子どもの関係性の中で生じている。見えなくなっているいじめについては、生徒自身の力で解決していくことが極めて重要であると述べられました。また、いじめを発見するためには、「いじめはないもの、あってはならないもの」という視点からは、何も見えてこない。まずは、子どもの目線に立って、子どもの関係性に生じているちょっとした変化を見つめてみることの大切さが述べられていました。意識改革をすることで新しい世界が見えてくる等、横山先生の、子どもたち一人ひとりを尊重しようとする態度や教育的愛情の深さに感銘を受ける講演会でした。

《参加された方の感想》

- ・ いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こるという意識でしっかりと子どもたちを見ていき、少しの変化を見逃さないようにしていきたいです。どの子どもも被害者にも加害者にもなる可能性があるため、自尊心を高めたり自己有用感をもつことができたりするように子どもたちを認め、「ありがとう」を伝えていきたいです。
- ・ 現代でも、いじめは当たり前であり、9割近くが経験していることを聞いてすごく驚きました。まずは子どもの目線に立って子どもたちと心の交流ができる関係を築いていきたいと思います。教師になったときの原点を思い出し、子どもたちと心の交流のできる関係を築いていきたいと思います。
- ・ 「傍観者から仲裁者への転換」いい言葉を知りました。非日常的な生活が大切なことが分かりました。実際の事件を先生の体験から伝えてくださったのが分かりやすかったです。
- ・ お話を聞いていると大津の事件のあった学校及びクラスの状態ではなく、私たちの学校や周辺の学校にありがちなことばかりでした。教師一人ひとりの意識改革のためには、こういう話を聞くことは必要だと改めて思いました。
- ・ 学校現場では、実態が様々だと思いますが生徒たちが安心して学校生活を送ることができるように、教職員が一丸となって取り組んでいかなければならないと感じました。明日からの学校経営をもう一度見直していこうと思います。
- ・ いじめは人権侵害であり、人を死に追い込むこともあるという認識をもつことの大切さを改めて感じました。いじめが存在していることを恐れず、ささいなことでも発見するという視点で日々取り組むことが大事だと思いました。
- ・ いじめの透明化という言葉は初めて聞きました。「この子は一人であることが多いから」と一人である子の孤立感を見逃していたのではないかと反省しました。



研修風景



連携体験研修（5年研）

5年研では、幼稚園・小学校・中学校の中で連携体験研修を行いました。異なる学校園へ1日行かせていただき、発達段階の異なる子どもたちの様子や先生方の取組等を知ること、自らの指導を見直すよい機会となっています。（受講者の感想から）

幼稚園の先生方の丁寧な準備や温かい支援がとても勉強になりました。園児たちは体験を通して発見したり、できることが増えたり、友たちとの関わり方を学んだりしていました。園児たちが身に付けてきた力を小学校でさらに伸ばしていきたいです。（小学校教諭）

中学校では、生徒たちが主体的に活動していたことが印象的でした。将来を見据えた指導をされているのだと思いました。小学校でも発達段階に応じて、自ら考えて行動できるような仕掛けをしなければならぬと感じました。（小学校教諭）

笑顔が素敵な児童たちが、中学生になったときも笑顔でいられるよう、小・中のギャップを減らすことが大切だと感じました。小中連携の視点を意識した指導をしていきたいです。（中学校教諭）

初任者研修（会場校園をお借りして）

初任者研修では、学習指導と評価・特別支援教育・道徳と特別活動・幼小中連携の研修で、毎年会場校園をお借りし、1日をその学校園で過ごして研修をさせていただきます。今年度は、茶屋町小学校・真備東中学校・倉敷支援学校・老松小学校・庄中学校・庄幼稚園・琴浦東小学校で研修をさせていただきました。会場校園の研修は、実際に現場の様子を見たり、体験したりする中で、実践に直結する貴重な学びの場となったようです。（受講者の感想から）

先生の声掛け一つ、動き一つにも意味が感じられ、勉強になりました。話し合いが活発だったのは、よい話し合いの仕方を全体に紹介し、みんなで共有したからだと思います。事前準備の緻密さと工夫にも感動しました。（小学校学習指導と評価・茶屋町小学校）

基本の「型」を身に付けた上で、これだけは誰にも負けないと自信になるものを身に付けられるように努力をしたいと思います。授業者の先生のお話を聞いて、生徒の興味を引き出すためには、「工夫すること」「新しいことをやってみること」「準備をしっかりすること」が大切だと感じました。（中学校学習指導と評価・真備東中学校）



学級会では、話し合いに聞き入ってしまいました。一人ひとりが、話し合いの目的を明確に意識し、自分の考えをもっていったからこそだと思います。全員が納得することを目指す、クラスの一体感も感じました。低学年のうちから少しずつ経験を積み重ねて、高学年でこのような学級活動ができるように力を付けていきたいです。（小学校道徳と特別活動・老松小学校）



これまでの道徳や学級活動の時間に自分がしてきたことを振り返ると、もっと準備を丁寧にすべきだったと思いました。正解のない授業であるからこそしっかりと生徒に向き合って一緒に考え、共に学べる授業をつくってきたいです。（中学校道徳と特別活動・庄中学校）

社会貢献体験研修（中堅研） 企業等体験研修（15年研）

夏季休業中に学校を離れ、中堅研では保育園や社会福祉施設に、15年研では一般企業等において、それぞれ2日間の体験研修を行いました。専門職としての技の奥深さや、仕事に対する熱い思い等に分れ、改めて教職のプロとしての自分のあり方や考え方について見直すよい機会となりました。（受講者の感想から）

一人ひとりを尊重し、それぞれに合った関わりや支援をしていくことは、学校教育と通じると感じました。研修を通して、まずはクラスの子も一人ひとりのことを理解していく必要があると感じました。その上で、それぞれが成長していくために必要なことは何かを考え、個に応じた支援をもっとしていかなければならないと感じました。（中堅研受講者）

この体験を通して一番強く感じたことは、店長をはじめ従業員の方たちの仕事に対する意識の高さです。開店前、朝礼での店長の話、そして従業員全員での身だしなみやチェックや声出しなどは、チームとして士気を高める大切な時間だと思いました。開店すると、常にきびきびと動き、お客様に笑顔ではきはきと対応する。そのような積み重ねがお店の売り上げを支えていくのだと思いました。（15年研受講者）



発達段階の違いや障がいの程度に応じた個別支援の丁寧さに驚かされました。しかし、すべて支援するのではなく、ゴールをきちんと設定して「一人でできることは一人で」という先を見据えた指導方法に「支援」の本質を感じました。（特別支援教育・倉敷支援学校）

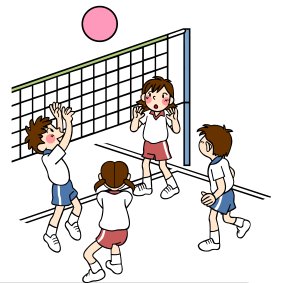
遊びを通して総合的な学びの環境が築かれていました。声掛けや視覚的アプローチからの様々な支援があることを学びました。私も子どもたちの「やりたい!」という思いを引き出し、必要感のある学習にすることを大切にしなければと強く感じました。（幼小連携・庄幼稚園）

小学校で目をキラキラさせて「勉強が楽しい。」と言う児童が、中学校でも変わらずに学習するには何ができるだろうかと考えました。生徒を引き付けて、学ぶ意欲を高めるためにねらいをもった授業をしなければなりません。生徒が1時間学習して、「分かった!」と感じられるよう教材研究をしっかりしたいです。（小中連携・琴浦東小学校）



倉敷ふれあい教室合同行事

～ 5 教室 合同 の 体 験 活 動 ～



ふれあい宿泊自然学習 (倉敷市少年自然の家)

7月



- ・野外炊事では、みんなで協力して作ったカレーライスがとてもおいしかったです。
- ・ウォークラリーは、みんなで力を合わせて行えました。キャンドルサービスなど、よい思い出ができました。(参加児童・生徒の感想より)

倉敷ふれあい教室では、5教室合同で体験活動を行っています。

7月には倉敷市少年自然の家でのふれあい宿泊研修、9月にはくらしき作陽大学でソフトバレーボール大会を実施しました。

子どもたちは、これらの活動に取り組む中で、教室の仲間と協力することの大切さややり遂げた喜びを感じ、自信をもつことができました。また、他の教室の仲間とふれあって人間関係を広げる等、多くの成果を得て成長しています。

12月13日(水)には、1年間の集大成ともいえるふれあい文化祭を行いました。会場後方に各教室の活動の中で作り上げた作品を展示し、ステージでは、カー杯発表を行いました。

- ・最初は緊張しましたが、みんなで協力して思いっきりプレーできたので楽しかったです。
- ・他の教室の人やボランティアの人とソフトバレーやバドミントンを通して交流ができてよかったです。
(参加児童・生徒の感想より)

ふれあいソフトバレーボール大会 (くらしき作陽大学)

9月



12月

ふれあい文化祭

(ライフパーク倉敷 大ホール)

倉敷、水島、児島、玉島、真備の5教室がそれぞれにダンスや合奏等の個性的なステージ発表をしました。

倉敷



水島



児島



玉島



真備



アンケートの感想より

・どの教室も工夫をこらして、たくさん練習した様子がよく分かる内容でとても楽しませてもらいました。歌やダンス、サイエンスショー、手話、合奏など演目も様々で見応えがありました。

・各ステージ、とてもよく工夫されていて、生徒たちの自信を感じました。すごい感動をもらいました。明日から頑張ります。力をありがとう。

・保護者や先生方、子どもたちの交流する時間も取れていてよい取組でした。教室同士のつながりを感じました。



児島

今年、自分たちが作った作品を教室ごとに展示しました。



倉敷



水島



玉島



真備

倉敷ふれあい教室めぐり

☆☆ 真備教室 ☆☆

☆ 豊かな自然と歴史、
文化に囲まれて・・・

倉敷ふれあい教室真備教室は、倉敷市真備保健福祉会館3階にあります。山に囲まれた緑豊かな環境です。ゆったりとした中で、四季を感じながら、いろいろな活動をして過ごしています。

午前中の活動は自分で決めたスタディーに取り組み、その後、なかよし活動をいろいろと楽しく行っています。その中で「栽培活動」は、今年もプランターで野菜を育てました。赤色黄色のパプリカ・ミニトマト・キュウリ・ナス・サツマイモ、そして、黄色小玉スイカの苗を植えました。肥料と水やりをこまめにしたところ、すくすくと育ち、7月中旬には次から次へと収穫できるようになり、みんなでおいしくいただきました。また、ナスは秋まで育て、たくさん収穫することができました。「調理実習」では、なかよし会議でそれぞれ作ってみたいものや季節に合わせた献立を話し合っていて決めています。今年も10月に収穫したサツマイモで、スイートポテトとグラタンを作りました。みんなで楽しく協力して作った料理は、どれもとてもおいしく満足するものでした。「スポーツ」では、地域の施設や公園で、ソフトバレーボール・バドミントンなどをしたり、教室で卓球をしたりして体を動かして楽しんでいます。



その他にも、春の遠足で倉敷美観地区へ社会体験に行きました。そこで、むらすずめ作りの体験をしました。

真備教室では、毎月の目標を決めて、日々の活動を通して仲間と協力しながら元気よく楽しんだり挑戦したりして、「感動」と「希望」がもてるように過ごしています。

☆☆ 水島教室 ☆☆

☆ 和気あいあいとした
雰囲気です・・・

倉敷ふれあい教室水島教室は、ライフパーク倉敷内にある倉敷教育センター事務室の隣に教室があります。福田公園の近くであることから、公園の散策をして四季を感じたり、テニスコートなどを利用したりして過ごしています。施設内は空調も完備されており、過ごしやすく、恵まれた環境の中で活動できています。

今年度の教室目標は「一歩」。日々前進、一歩ずつ前向きに進んでほしいという思いをこめて教室の前に掲げられています。

なかよし活動では、年間を通していくつか継続しての活動に取り組んでいます。

「幼稚園交流」は、年間に4回あります。主に年長児と一緒に遊んだり踊ったりして過ごします。水遊び・泥んこ遊び・ままごと遊び・かくれんぼやおにごっこ・ダンスなど、たくさんのお楽しみをします。回を重ねるごとに、園児も親しみを感じてくれるようになり、あちらこちらでひっぱりだこの状態です。

「調理実習」は、“自分でできる簡単料理”をテーマに、レンジや炊飯器を使って、身近な食材で安全に料理することを目標に、4月～12月で、さつまいももち・キャベツたっぷりお好み焼き・プリン・いちご大福・簡単ピラフなどを作りました。気に入ったメニューは、「家に帰ってからひとりで作ってみた!」という生徒もいました。

「創作活動」は、教育センターの先生方の出前授業を組み合わせ、1か月に3～4回取り組みます。これまでに、皮革ストラップ・土笛・プラントハンガー・スクウィーズなどを作りました。力作がたくさんでき、文化祭の展示で披露することができました。

他には、ボランティア活動(窓ふき・ごみ拾い)・書道・リコーダー・茶道・スポーツ・ゲーム大会・栽培活動・レクリエーションなどの活動を行います。いつもなかよく活動でき、笑い声のたえない教室の雰囲気となっています。

